



学校だより

令和2年6月1日
練馬区立北町西小学校
校長 吉川 文章
第687号

教育の原点に立ち返り、日々の積み重ねを大事に地道に実直に

校長 吉川文章

行事や学期の節目に「努力の壺」と題して以下の話をしています。

9年前の9月のことです。仕事に出かける時に、家の前で、高学年くらいの男の子が走っている姿を毎朝見かけるようになりました。お父さんが横で励ましながら付き添い、その子は早歩きのような走りでした。その様子から「頑張っているな。偉いな」「いつまで続くのかな。そう長くは続かないだろうな」という二つの思いをもちました。最初は、お父さんが言っているから仕方なく走らされているという感じでした。表情も、「やりたくない」と顔に書いているかのようでした。

毎朝その子を気にして見るようになりました。遅く家を出る日もあるので、その子に会わないと「あきらめちゃったのかな」と心配な気持ちになりました。しかし、1週間たっても2週間たっても、その子は走るのをやめませんでした。1ヶ月位たった頃でしょうか。変化が現れました。息づかいが「はあはあ」から「はっはっ」とリズムが出てきて、腕を振って走れるようになってきたのです。顔つきも変わりました。「やらされる」から「自分からやる」という表情に。そばに付いていたお父さんも、その子と同じ速さで走るのが精一杯という様子でした。その子の変化を自分のことのように嬉しく思いました。

2ヶ月たつと季節は、冬に近づいてきました。最初は、半袖で走っていたその子も、長袖になりました。いつからかお父さんはもういませんでした。年が変わり、春に近づいてきた頃には、ふっくらしていた体型が、陸上選手のような体格に変わっていました。それから2年ほど立ったとき、びっくりするほどのスピードで走るその子の姿を見かけました。自転車に乗っているお父さんがそばにいました。中学校の駅伝大会の練習をしているのかなと思いました。今はもう、彼を見かけなくなりました。でも、きっとどこかで努力を続けているに違いないと思っています。

努力には、それをためる壺があるそうです。1週間や2週間努力をしても、その壺はいっぱいになりません。努力を途中でやめると壺の中はすぐからっぽになります。続けることが大切です。ほんの少しの努力の日があってもかまいません。とにかく続けることです。そして、努力の積み重ねでその壺がいっぱいになった時、努力の結果が壺からあふれ出すのです。あふれ出してからは、自分でも信じられない位の力がどんどん付いていきます。走り続けたその子は、努力の壺をいっぱいにし溢れさせ努力の結果が形となって現れたのでしょう。

みなさんが家庭で計画を立てて、勉強やお手伝いなどに毎日取り組んだこの2か月近くの努力は決して小さいものではありません。6月からの大きな力になってくれるでしょう。新しいクラスでの学校生活のスタートに当たり、一人一人が、クラスが、学年がめあてや目標を立てて、「努力の壺」を溢れさせる毎日にしていきましょう。

学校再開に向けて、当初の分散登校に始まり、午前授業から通常の授業へと段階的に再開していくことで、保護者の皆様、子供たちに不安や負担を強いることについては心苦しい思いです。夏休みの短縮や土曜授業等の増加、行事の縮減や中止など、実施しなければならない数々の対応についても然りです。しかし、5月の学校だよりでも発信をした「この局面をポジティブな発想で乗り越えていく」こととあわせて、日々の日常の積み重ねこそ、コロナとの戦いから生まれる大きな成長があるのだと考えています。今こそ、努力を継続するという「教育の原点に立ち返り、日々の積み重ねこそを最も大切に、地道に実直に」教育活動を展開してまいります。なにとぞ、ご理解ご協力ご支援のほど、どうぞよろしくお願いいたします。